



子ども心の声を受けとめ、 寄り添う教育・子育てを

6月25日に、「尾北の子どもと教育を考えるつどい」が岩倉市民プラザで開催され、教育講演会が行われました。今回は、渡辺恵津子さん(大東文化大学・元小学校教員)を講師に招き、「子どもの心を受けとめ、寄り添う教育・子育てをうかがえない子ども時代のために、つながり合いの子育てを」のテーマで話をうかがいました。講演の要旨を紹介します。

子どもが元気に 登校できるためには

自分の妹にいじわるをしてしまう2年生の女の子の「いじめの気持ち」という詩を紹介しながら、

「この子は、本当は、自分の気持ちを忙しいママに分かってほしいんですね。『そうだね、がんばっているね』と言ってほしいんです。』と話されました。

そして、子どもは、以下の5つのことが満たされていると、毎朝、元気に登校することができると話されました。

- ①宿題がやってある。
- ②朝ご飯を食べた。
- ③授業の用意がしてある。
- ④行ってらっしゃいと言ってくれる人がいる。
- ⑤不安がない。



でも、実際には、そういう生活が保障されていない子どもたちが、最近よく見られることも話されました。

深い子ども理解 こそが大切

子どもをどう見たらよいかについて次のように話されました。

「子どもが見せる多様な事実をつなぐこと、子どもをいかに理解することが大切です。子どもの言動をいろいろな角度から見

みることが大事で、そうすると今まで見えなかった子どもの心が見えてきます。見えないものを見ようと努力することが大切です。

そして、『困った子は困っている子』と周りにいる大人が見れるかどうかが大ポイントです。

例えば、すべキれる、けんかやトラブルばかり起こす…そういう攻撃的で友だちとの人間関係が上手に結べない子がいて困っている、という話はよく聞きます。

でも、その子が求めているのは『温かいつながり』であったり、その子の願いは『認めて欲しい』『できるようになりたい』であったりするので。

一見、『困った子』として大人から見える子は、実は、『本人が一番困っている』のです。

子どもを丸ごと受けとめ、 安心できる場づくりを

全部暴力で解決しようとする大変な子を担任している職場の先生から『うまくいかないの…』と相談を受けたときのことを話されました。

私は、『その子のことをノートに書き留めておくといよいよ』とアドバイスしました。その後、その子が『教室には『ぶき』があるんだよ』と言うので、聞いてみると、『からぶき』『水ぶき』だったという話をその先生から聞きました。『子どもってかわいいね』と、その先生と笑って話をし、その先生は、次第に、その子

の見方が変わっていったんです。

そして、この子が、学校・学童・家庭で、それぞれ違った顔を見せていることにも気がつきました。

学童保育からお父さんといっしょに帰るときに見せた笑顔を見て『お父さんといっしょの時間がこの子には大事なんだ』と、担任やまわりの先生は気付かされました。

子どもは、いろんな場でさまざまな表情を見せます。どれもこの子なんだと、丸ごと見ることが大切ということ。

そうであるなら、学校も子どもにとってそういう安心できる場所になるようにしていけばいいのです。

もう一つ大事なことは、こういう子ども仲間の言うことは聞くんです。だから仲間を育てることは大切です。

そして、安心関係の中で、子どもは自分の力で育つんです。』と話されました。

家庭の困難を ラブレターにしてみよう

親から虐待を受けている可能性のある子の話をされました。

「勉強が分らないので、いっしょに勉強を始めたら80点取ったら、ごほうびが欲しいな』と言うので、何が欲しいか聞いてみると、その子の願いは、なんと『おんぶしてほしい』だったんです。

今、『親におんぶしてほしい』だったことがない。』という子は多いんです。

また、おんぶしてもらってないのに『おんぶしてもらった』と書いた子がいて、

実は、その子の家庭は複雑だということが後でわかったんですが、私も、子どものことばの裏にある本当の願いを、最初は、くみ取れなかったんです。

また、体調の悪い子がいて、親に迎えに来てもらうことになったんですが、その親は来るなり『忙しいのに何で電話したんだよ！』と子どもに言いました。でも、帰りには、親子で仲良く手をつないで帰って行きました。

本当は、この親も子どものことを心配しているんです。親も毎日の忙しさの中で、子どもにきちんと向き合えず、ついついキツイ言い方になってしまっていることが多いのですね。」

よい子でなくは いけない辛さ…

通知表を、自分で改ざんした女の子のこゝとを話されました。

「この子は『よい子でなくちゃいけない』とお母さんから言われ続けてきたんですね。」

最近、『よい子でなくてはいけない』と強く感じている子が増えてきています。その子自身がそれを大きな重荷に感じたり、そうしないといけないという強い緊張感の中で生活したりしていると、例えば、この女の子のように、親から『よい子として見られたい』という思いのあまりに、通知表を改ざんしてしまう、といった歪んだ行動に出してしまうのですね。

『失敗したり、間違ったりするあなたでいいのよ』というメッセージを子どもに届

けることが大事です。

大人が、子どもが感じている辛さを理解し、子どもが『自分の気持ちを分かってくれているんだ』と感じる、そういう共感が子どもを励ますのです。」と話されました。

講演の最後に、

「さまざまなお子さんの問題を、大人の問題としてとらえることが大事です。大人がおかしいと思ったことを周りに発言していくことが大切です。」

そして親は一人で悩まず、つながる子育てを追求していくことが大事です。」と話されました。

講演会に参加した方たちから寄せられた感想の一部を紹介します。

涙が出ました。家では「早く」と言い過ぎています。本当に子どもは忙しいですよ。追いつめてるかなあ…と思います。そして親も追いつめられています。

子どもたちの本当の思いに気付くとき「こんなことを思っていたのか」と思われます。子ども発見は、子どもたちのせつない思いに気付くことでもあるのだなと恵津子先生を通して聞く子どもたちの言葉を聞きながら思いました。

私も「見えない思いを見ようとする人」でありたいと思いました。

～近隣で開催される民間研究集会や学習会～

道徳の教科化がもたらすもの ～性・人権教育のかげ～

《愛知性教協2017年次総会と学習会（講演）》

主催：愛知“人間と性”教育研究協議会（愛知性教協）

日時：8月27日（日）14:00～16:30

会場：愛知県女性総合センター（ウィル愛知）

会費：会員…無料。一般…500円。

◎講師：村瀬 桃子さん

1973年名古屋市生まれ。名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程後期課程満期退学。

勤務先では主に、教職（中学校）の授業を担当。

研究テーマは近現代の性教育の歴史の研究（1920年代の山本宣治の性教育論、占領期の山室民子の純潔教育論、等）。

山形県立米沢女子短期大学 国語国文学科 准教授。

民教連 あいち教育大集会 集会テーマ「楽しい学校、楽しい授業」

主催：愛知県民間教育研究団体連絡協議会

日時：9月9日（土）10:30～16:30

会場：日本福祉大学 東海キャンパス

資料費：教員1000円 学生無料

<内容>

◎午前：10:00～12:00

◆講演 塩崎義明さん（全生研）

「子どもと楽しめる教師になろう」

◎午後：13:00～15:00

◆講座（①国語、②算数、③道徳）

13:00～15:00

◆分科会（①小低、②小高、③中学

④特別支援）